

令和 2 年度

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた 虹の家		
所在地	〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	令和2年7月2日	評価結果市町村受理日	令和2年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、スムーズな連携体制がとれ安心して生活ができる環境にある。 * 海の幸、山の幸に恵まれ、そこから季節を感じ生活できる環境にある。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田野畑村の社会資源が集中する中心部の高台に位置し、国保診療所、保健センター、地域包括支援センターと地続きの敷地にある。事業所は、デイサービスセンター、高齢者支援ハウスとともに村の指定管理施設として、法人の特別養護老人ホームとともに、行政も加えた保健福祉ゾーンを形成し、医療との連携は事業所の最大の強味となっている。事業所運営理念に基づく基本理念を「これからの人生も燦爛と」としキーワード「健康・清潔・安心」を具体的介護の要としている。毎年実施している利用者、家族アンケートを通じた利用者の思いの把握・具体化は、理念に沿ったものである。コロナ禍の今日、法人の「感染予防委員会」が中心となって感染拡大防止に努めながら、外出、面会の規制に伴う利用者への悪影響を少しでも防ごうと、様々な工夫をこらしている前向きな事業所である。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目につくところ(介護員室)に掲示し、日々意識をしながら生活支援をしている。	現行理念を作って6年ほどを経過し、見直しの時期ではとの声もあるが、職員に十分周知され、機能もしている。職員は介護の基本テーマ「燦燦」の意味する、利用者を輝かせようと、利用者が心身の健康に不安を持つことなく、自然体で生活出来るよう支援している。	「運営理念」「基本理念」「キーワード」が一体的に定められ、利用者の尊厳はもとより支援の柱として機能しています。日々の介護を振り返りながら、必要に応じ新しい地平を切り拓かれていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の行事・保育園の運動会等の参加をしているが、今年度は感染症予防により行っていない。利用者の重度化等により地域の交流は一部の利用者に限られる。気分転換のため村内の公共施設等利用し顔を覚えてもらうなど交流できるように支援している。寿生会広報を発行している。	事業所は、医療、福祉関連施設を集約した一団の用地にあり、様々なメリットがある反面、日常的に地域の方々と交流する機会は限られ、ことのほか利用者は、近隣の保育園、小中学校の運動会や村の産業まつり等のイベントを楽しみにしている。しかし、コロナ禍のため今年は軒並み中止になっている。地域包括支援センターが主催し村内事業所持ち回りで開催している認知症カフェは、今年は特に利用者相互の貴重な交流機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	田野畑村認知症カフェを活用し、認知症についてのミニ講話等を行い地域貢献の機会を設けることができた。相談を受けた際は貢献できるよう体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を行い、入居者の状況や活動を報告している。会議で取り上げられた事項やグループホームからの相談について話し合い、助言や意見等をいただき実行している。	地区の婦人部長、有識者、村の担当者、地域包括支援センターに加え、利用者とその家族も委員として出席しているが、コロナ禍のため、2月を最後に書面開催としている。例年行っている利用者への聴き取りアンケートの報告では、利用者の生活の様子、希望等についての意見交換を通じ、各委員は、日々の介護への理解を深めている。	コロナ禍による書面での運営推進会議開催が今後も続く場合、委員の疑問に応え提言を頂く上で、会議資料に併せ「質問カード」をお送りするなど、運営推進会議の機能を可能な範囲で維持する方法を検討されることが望ましいと考えられます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、状況報告をしている。実際に施設状況を見てもらい、不要であった小上がりの撤去を進めてもらい早期に実現した。また、月1回地域ケア会議が行われており管理者が出席し必要に応じ相談を行っている。それ以外でも必要時に随時連絡を取れる体制としている。	介護保険担当課はもとより、隣接する健康福祉課とは事業所が指定管理施設ということもあって施設の修繕のほか、生活保護関係の届出等、日常的に交流し指導・助言を得ている。また、地域包括支援センターが主催する、認知症カフェや毎月の地域ケア会議は、村内関係者との情報交換の機会ともなっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束はしないでケアを行うことになっており、その意識のもと日々支援している。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束と思われる事例を再確認している。必要に応じ都度職員で話し合っている。必要時センサーコールを設置し安全且つ拘束しないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会では、法人内で身体拘束事例が無いことの確認を主眼としている。家族の了解を得るための様式はこれまで使ったことはない。室内で排泄しがちな一人の利用者の居室に簡易センサーを設置している。無断外出の利用者には見守りに対応し、夜間以外の玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年内部研修をしている。入浴時などに、日常業務の中で身体に変化等ないか確認している。皮膚状態をみて間違った対応をしていないか再確認する場合もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年内部研修をしている。昨年度は成年後見制度利用者がいたため、具体的に学ぶことができた。また今後日常生活自立支援制度の利用を検討が必要な方もいる。現段階で個々の必要性の話し合いはしていないが、必要時には法人内で相談に乗っていただける体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時や入居前に見学して頂いたり、入居前後問わず双方で思い違いのないように心がけて説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情窓口を設置している。今年度は利用者・ご家族アンケートは冬季に実施を予定している。その他にも面会時や電話連絡時等話しやすい環境づくりに努めている。結果は職員間で共有、推進会議で報告し、運営に反映させている。	以前あった家族交流会に代え、利用者と家族を対象にアンケートを毎年行っている。特に利用者の意向は、複数の職員が話しやすい雰囲気作りをしながら聴き取っている。「できることがあればやらせてほしい」とした声を活かしたところ、沈みがちなこれまでとは違って、明るく生きがいを持って毎日を過ごされるようになった方もいる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員の意見等を聞き働きやすいように業務改善を行っている。	複数の施設を統括する特養の施設長が毎年1回職員個人面談を行い、管理者は日常的に業務の合間等に個人的なことも含め職員の意見・意向を聞き取り把握している。最近職員の大幅異動があったこともあり、職員の提案を受け、これを機会に備品の配置を使いやすく変更したり、書類作成業務の省力化のための様式改善やパソコン入力による記録作成を導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長へ管理者・介護主任より必要と判断した案件は随時、報告・相談している。働き方や体調に考慮した体制が少しずつ進み、職員に人数も確保でき働きやすい状態に少しずつ改善されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修やオンライン研修に参加する機会がある。参加できなかった人は、報告・回覧などをし情報共有に努めている。今年度は感染症の状況に夜が、今後の事を考え必要と思われる研修を受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、多職種交流会、認知症カフェ等に可能な限り参加している。情報交換をしサービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後に傾聴し、希望に添えるような情報収集を行っている。また、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に傾聴し、希望に添えるような情報収集を行っている。また、信頼関係が築けるよう努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点ではほとんどの方が介護サービスを受けている事が多い。介護度により特養の申し込みも済んでいる方も多いが、申し込みをしていない方は身体・認知機能の状態をみながら必要に応じ特養の説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合った行事、行事の準備、食べ物のごしらえや保存方法を聞きながら一緒に行っている。本人の保たれている能力を活かし炊事・掃除などができる機会をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2~4回の家族通信や面会時に近況報告、相談は必要時に電話対応をしている。いつでも要望等を聞ける体制にあり、共に支えるよう努めている。毎年家族交流会を行なっているが、ご家族が高齢や遠方の方が多くなり規模が縮小してきている。感染症拡大予防のためオンライン面会もできるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の理美容院を利用している。利用者の重度化や高齢などにより馴染みのひととの交流は難しい面があるが、公共施設や地域のイベント等に可能な限り出向くなど途切れない支援をしている。	加齢に伴い馴染みの人は家族が中心となっている。どの家族も村内又は周辺に住んでいるため、多い方は2週間に1回訪問していた。コロナ禍のため8月から面会をお断りし、オンライン面会に切り替えたが、今のところ利用者はいない。管理者は、利用者の心の安寧に繋がるようLINEでの動画送受信を事業所で具体化できないか思案している。	利用者家族のプライバシー保護上、家族の訪問が解禁になった際には、これまでの「訪問者名簿」をカード方式に変更しては如何でしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況、また変化等あった際、パソコンにケース入力し申し送り等で職員間で情報共有を図り、中立な立場で支援に努めている。食器を洗う・拭く、車椅子を押す、体調不良時に声を掛ける等、入居者同士が支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	私用時に買い物等でご家族と会うこともあり、必要に応じ相談・支援する場合もある、。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行動、表情をよりくみ取るよう心掛けている。また、入居期間が短い利用者が多く日々の会話から思いを聞き取るようにしている。更に必要に応じ、その思いをご家族に伝えるようにしている。双方の意見が違う場合は、中立な立場をとっている。	介護の基本の一つを利用者の心身の健康とし、皆のためにやりたいこと、出来ることにチャレンジできるよう、思いを把握しその機会作りに努めている。利用者が自ら棚作りをしてそれを職員に教えたり、お菓子作りに精を出したり、図書館から何冊もの本を借りて読書に耽る人もいて、利用者の意欲、希望に応えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、他でサービスを利用している場合には情報を頂くこともある。また、日常生活から得ることもある。更に訪問者から何気ない会話で得ることもある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有、計画に沿った記録を含め、細かく記録することで情報把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、カンファレンスを行い、現状確認・必要・改善等の意見を出し合い、継続、変更を行っている。“出来る事”、“今の暮らしをどう楽しくできるか”を考え、計画を立てている。	計画の継続、変更を3ヵ月又は6ヵ月毎に行い理念に沿った介護計画としている。利用者を担当する職員は、日々の介護記録などにより生活状況を整理し、それに基づきアセスメントの原案を作成し、現行計画の評価を行っている。その上で管理者と主任介護士を交えた3人が計画の変更を協議し、家族の意向も取り入れながら、計画作成担当者が成案を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等気付いた際は、記録をし、重要事項は日誌に載せつつ申し送りを行い、カンファレンス、又は随時情報共有し計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	村外通院対応など本人や家族のニーズに沿った対応をしている。利用者の重度化により普段買い物をする機会がほとんどないが、軽度の利用者は図書館や買い物に出掛けている。なじみの美容室に施設へ来てもらっている。また計画で外出した際に買い物をする事もある。			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物に出掛ける際には、事前に連絡し協力していただいている。散髪の時、施設へ来ていただく事もある。法人の感染対策委員会の結果により、可能と思われる行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年度より、かかりつけ医が田野畑村診療所の医師の場合は訪問診療を行い状態把握をして頂いている。時間外でも要請があれば往診して頂いている。村外通院の場合は、必要に応じ通院に同行し状態報告・相談を行っている。	大半の利用者のかかりつけ医である隣接する国保田野畑村診療所は、医師が常駐し月曜日から金曜日の午前中まで、内科と外科を中心に診療している。利用者は毎月1回特定週の金曜日の午後の訪問診療を受診している。村外にある医療機関の特別科に通院する2人は、家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている同法人内の看護師が状態を把握し、相談や支援をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談機関等と必要に応じ電話をするなど情報交換に努めている。入退院時は密に情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	色々な状況が想定できるので、早い段階での話し合いは行っていない。そのような状況になった、あるいは状況になりつつある時に医師、家族、本人、事業所で相談しそれぞれが納得のもと、チームで支援に取り組んでいる。アンケート方式でその時の意向を本人より聞いている。	入居に際し、利用者と家族に看取り指針で重度化や終末期の法人としての対応を説明している。5年ほど前に事業所で看取りを経験した職員や特養での経験者も在籍している。看取り未経験の職員を対象に、先輩職員を講師とする事業所内研修を定期的に行い、知識・経験等の伝承に努めている。終末期を迎えた際には特養への住み替えなど、家族とともに寄り添い介護を行うことにしている。	

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4月に急変時の対応、5月に心肺蘇生法の法人内研修を実施した。参加出来なかった職員は書面で周知した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほぼ毎月訓練を実施している。地域防災協力者の体制がある。	事業所単独又は特養等と合同で、通報、応急手当等を含めた訓練を毎月計画的に行っている。7月の訓練はコロナ禍のため中止となったが、9月には消防署立ち合いのもと、夜間火災想定総合訓練を予定しており、地区会長を始めとする防災協力者の参加協力を得ることとしている。事業所は高台に位置していることから、通常想定される災害は、地震と山火事としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報とは入居者や外部の方々の目につかないところに置いている。又、書類を捨てる際にはシュレッダーにかけている。本人の意思を確認しできる限り意向に沿えるよう心掛けている。また、利用者に対しても声掛けが不適切なケースがあり、内部研修を行い、職員間で注意し合うなど改善に努めている。	事業所としてまた職員として、利用者の心と体の健康を守ることを事業所全体に共通する介護の使命の一つとし、普段の自然な会話を通じて関係性を構築しながら、利用者の意向把握に努めている。外出の希望があればドライブに連れ出したり、可能な利用者は食料の買い出しに職員と一緒にしている。呼称は原則ファーストネームとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を出しやすいような会話を心掛けている。希望・要望はアンケートを利用し、引き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り沿うようにしている。遠慮もあるのか個人の希望が少なくなっているが、日常会話からニーズを引き出し希望にそって支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には衣類を着替える、その際には本人の好みを聞きながらコーディネートの手伝いをしていいる。髭剃りをしたり入浴後、クリームをつける方もいらつしゃる。敬老会・外出時等の行事の際に女性利用者は化粧をするなどおしゃれを楽しめるよう支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会にはその方の食べたい物を提供している。一緒に出掛け好物を買って食べることもある。毎食一緒にテーブルで食事を摂る、下ごしらえ、洗い物も一緒に行っている。好き嫌いや体調等の状態により食事形態を変更するなど、利用者に合わせて食事の提供を行っている。	職員が献立をたて、利用者と買出しや調理を行い、一緒に食卓を囲んで食事を摂っている。献立表は毎月事後に特養の管理栄養士の確認を得ている。利用者は食材を切ったりお米を研いだり、皆の前で焼そばを作ったりと、お手伝いに参加し、食事を一層楽しいものになっている。コロナ禍により楽しみにしていた外食が中止になり、代わりに室内でプレートを使ったバーベキューを行うなど、工夫を凝らしてこれまでと変わらない楽しい食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態を考慮したり、医師の指示のもと一人一人に合わせた形態や量を提供している。管理栄養士よりメニューのチェックを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を行っている。忘れていいる利用者には声掛けを行ない、口腔内の清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェックを行い、状況把握に努めている。コンスタント、且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・運動・散歩・乳製品の摂取等をしている。動きを見ながら誘導する方もいる。	昼間は、1人だけは排便チェック表や動作から判断しトイレに誘導しているが、他の8人は見守りが主で、トイレ内での支援の有無はともかく、自分の意思でトイレに立っている。管理者は、トイレで「上げた」時点で手を洗うよう声掛けすることが支援のポイントとしている。夜間は居室での動きを察知するセンサーコールの回数に応じ、2人をトイレ誘導している。現状を長く維持するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、状況把握に努めている。コンスタント、且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・運動・散歩・乳製品の摂取等をしている。動きを見ながら誘導する方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調をみながら1~2日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日入浴できる。入浴を好まれない方は声かけの仕方や時間をおいて声かけるなど利用者に合った対応を行っている。	午後の時間、1日3~5人、誰もが30分程度をかけてゆっくり入浴し、時には職員に昔話を聞かせてくれる。嫌がる方もいるが、お気に入りの猫の人形と一緒に喜んで入浴してくれる。半数の利用者は入浴後の着替えを自分で用意してくる。車椅子使用の方も、職員の支援で一般浴槽で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝・昼寝とも自由にできる環境にある。心地よく休めるよう日中の活動に配慮している。昼夜逆転傾向のある方は活動・精神を総合的に把握し原因を探りアプローチしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や個人台帳で確認できるようになっている。朝・昼・夕に個々で分けて保管、服薬時では傍で見守り、呼名・朝昼夕の薬であると声に出し渡す、確認の徹底を行っている。それでも口に運ぶ際落とすことが頻繁な方へは口に入れて援助している。変更の際には日誌や掲示板入力をし、申し送りも周知となるまで続けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で役割が持っている方もいる。ドライブ、買い物、散歩、オセロ、レクを楽しむなどの支援をしている。晩酌を行う方や読書が好きな方など施設での生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外食、銀行利用等利用者のニーズを念頭に付き添い外出支援を行っている。利用者の重度化により、一部の利用者は散歩や買い物の頻度は少なくなっている。家族が遠方、高齢化により家族との外出は少なくなっている。	お天気の具合を見ながら、3、4人でマスクを着用して敷地内を散歩している。コロナ禍により外出がままならなくなった利用者のストレスは、ミニドライブやホールでのカラオケで発散している。玄關脇のプランターで夏野菜を栽培出来ていることから、来年は使っていない花壇を畑に変え、外気浴を兼ねたお手伝いの機会を増やしたいとしている。	コロナ禍のもとの利用者の思い、希望を活かし、ストレスの少ない日常の提供に工夫されておりますが、利用者の外出制限が長引いた場合のストレス解消に、田野畑村の懐かしい姿を記録した映像を入手し、活用するののも一考ではないでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本小遣いはGH管理としている。必要時にはいつでも使えるようにしている。支払い能力のある利用者をご本人が管理し買い物など行えるよう支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅配便が届いた後や連絡で電話をした際、本人と話をしてもらったり、近況報告をすることがある。ご家族から電話がくる方もあるが、そうでない方はこちらからアクションをおこす努力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の整理整頓に努め、季節を感じられる飾りつけに配慮している。トイレやお風呂等わかりやすいよう表示している。装飾担当職員がその時期に合った飾りつけや趣味活動で作ったものを飾るなどの対応を行っている。	昨年に小上がりを撤去し、倍の広さになったホールには南向きの窓から陽光が差し込んでいる。大きなテレビの脇には、利用者が毛糸で作った「アマビエ」の人形が、利用者・職員のコロナ終息の願いを込めて飾られている。ホールでは、趣味の活動の場として、ゲームなどで利用者は思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでテレビを観たり、談笑されたり、自室で過ごされたりと利用者の好きなように過ごしている。R1.9に小上がりが無くなったことでゆったりとした共用空間ができた。広報や雑誌を置いたりし自由に観覧できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、鉢植え、本、裁縫道具等を置いている方もいる。利用者により読書や編み物を出来る環境をつくり、一人ひとり居心地よく過ごすことのできる環境にしている。	ベッド、エアコン、ファンヒーターと十分な収容力のあるクローゼットが備え付けられている。各部屋には法人で頂いたカレンダーが吊るされ有効に活用され、読書好きな利用者の居室には、読書机と自分で作った簡易な本箱が整然と書斎風に置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室の表示、手すりの設置、台所が共有スペースから見える場所にある。履物の工夫や杖を使用しなくても移動できる環境。掃除用具等、定位置に置かれている。昨年小上がりを撤去され、安全に歩行できる・車椅子自走できる環境となった。		